

宮市・国衙地区

山口県防府市

- 計画期間 平成20年度～平成24年度
- 面積 220ha
- 交付対象事業費 1,250百万円
- 市人口 119,084人（地区内人口 8,133人）

ポイント

歴史を活かしたまちづくりの実践

地区概要

地区内には、萩往還道、旧山陽道の沿道に、市の代表的な観光施設（防府天満宮）をはじめ、多くの国指定史跡などの文化財のほか歴史的なまち並みが残っている地区である。

目標

- 目標1：観光客の入り込み数および滞在時間の増加
- 目標2：快適で安全な歩行者空間の創出
- 目標3：守り育ててきたまち並み環境の保全

指標

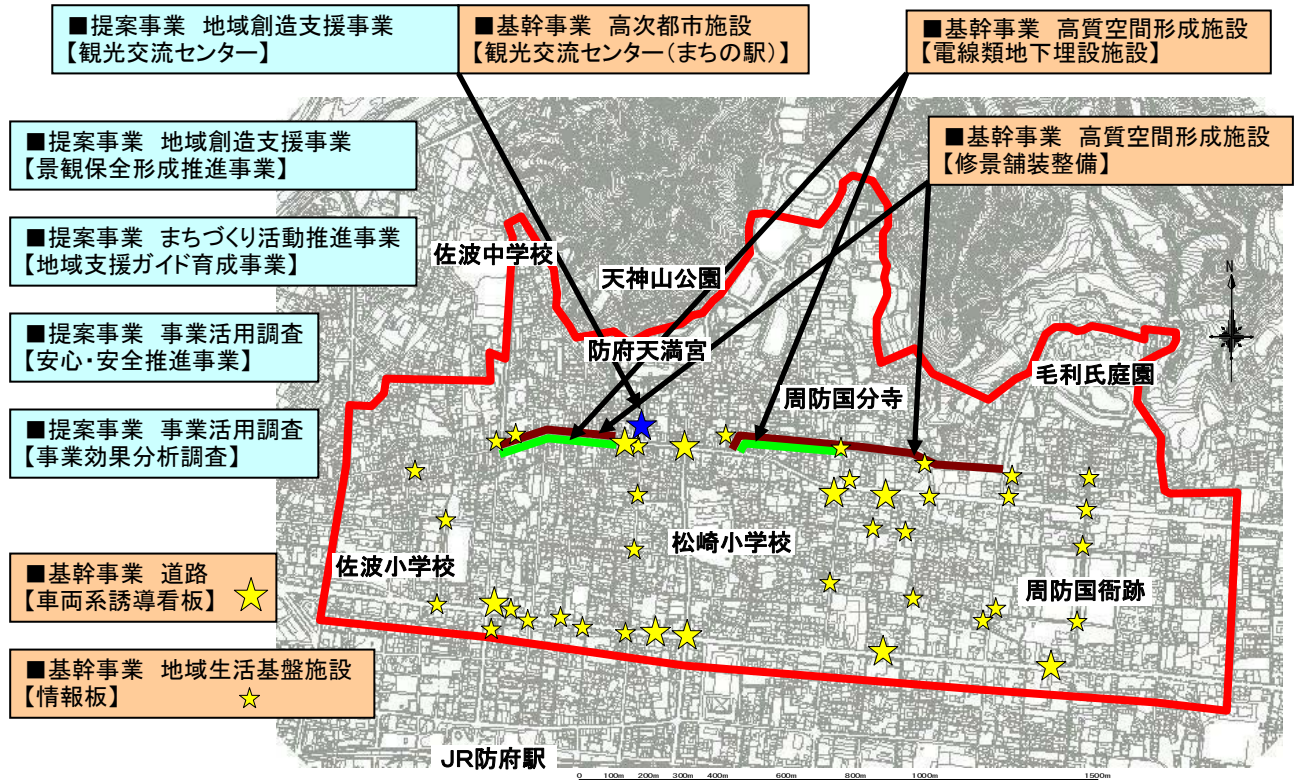
観光と市民交流の拠点施設の整備をすることにより、観光客及び滞在時間の増加及び創出した自転車・歩行者の安全で快適な施設に対する満足度。

旧山陽道上の自転車歩行者数	100人/日 (H19) → 200人/日 (H24)
住民アンケートによるまち並みへの満足度の割合	46% (H18) → 56% (H24)
地区内の観光施設への年間入り込み者数	62万人/年 (H18) → 70万人/年 (H24)

事業内容

基幹事業（1,110百万円）→ 道路（車両系誘導看板9基）地域生活基盤施設（情報板31箇所）高質空間形成施設（修景舗装L=1,010m, 電線類の地中化L=580m）高次都市施設（観光交流センター：「防府まちなちの駅」）

提案事業（140百万円）→ 地域創造支援事業（観光交流センター、国分寺白壁修景、参道の修景舗装）事業活用調査（交通量等調査、事業効果分析調査）まちづくり活動推進事業（観光ガイド育成、ワークショップ等）



地区の現況と課題

観光施設である防府天満宮や多くの歴史的遺産の回遊性が低く、また来訪者と市民との交流の場がない。旧山陽道、萩往還道は、交通量が多い上に道幅も狭く自転車・歩行者が安全に通行しにくい状況である。歴史的なまち並みが失われつつある。

提案事業の特徴

観光交流センター

いこいの場所として、食事など歓談のできるコーナーの設置

観光ガイド育成事業（民間ボランティア組織の拡充支援）

観光ボランティアガイドの公募による増員育成及び現ガイドの質的な向上と高校生によるボランティアガイドの実施

まちづくり協議会等 ワークショップの開催、まちづくりの啓発

安心安全事業の推進（デザイン会議の開催、交通量調査）

地区内の通過交通の排除と安心安全な空間の創設

計画策定プロセス

防府市美遊感構想 歴史的遺産を活かした整備構想の策定（H10）

歴みち事業の実施 文化財の保全と交通網の整備（H12～H20）

都市計画道路の変更 幹線街路の位置づけを区画道路へ変更（H21）

拠点施設創設、ネットワーク化 入り込み者数、滞在時間の拡大（H23）

防府市長 松浦正人氏のコメント

山口県内9件の国宝の内、5件が防府市内にあるなど、防府市には数多くの歴史的遺産があります。本計画地区の中心に、日本三天神の一つである防府天満宮が鎮座し、萩往還道、旧山陽道の沿道には国指定史跡などが集積しており、沢山の観光客の方に訪れていただいています。約15年前から「歴史を活かしたまちづくり」として本格的に取り組み、次世代に引き継がれるまちづくりを目指しています。

この度の大賞の受賞は、長年に渡りご尽力していただいている皆さんの励みとなるもので、これまで培ったものを糧として共に更なるまちづくりを推進していきます。

NPO法人 三好会長のコメント

私たちは、平成8年から時代の混在する萩往還・旧山陽道沿道の民家が、町家や大正ロマンを漂わすかつての商業施設など、歴史的な雰囲気のある残るまちなみを形成している宮市通り周辺を取り上げ、市・住民・NPOのトライアングルでテーマを「知る」・「観る」・「創る」・「伝える」の4つのステップを基本にまちづくりに取り組んでいます。今後も、地域住民とのコミュニケーションを深めるまちづくりに汗を流していきます。

河野自治会長のコメント

「街」にはそれぞれの顔があり、思いも様々です。急いで意見をまとめようとすると「エゴ」や行政依存だけになってしまいます。

まちづくりは、根気とともに外からの意見に耳を傾け、時間をかけて話し合うことが大切です。

この「街」のルールづくりはこれからですが、現在の者だけで決めるのではなく、将来、夢のあるまちになるようこれからもみんなで考えていきます。

●観光交流センター 防府市まちの駅 (愛称公募：うめてらす)



開業1年8カ月で

来館者100万人を達成!



●景観、自転車・歩行者の 安心安全空間の創出



整備前 H20.3

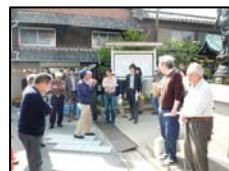
整備後 H23.3



現在もホテルの飛び交う用水路と、石組道台を文化財として保全

(歩行者のやすらぎの空間として
ポケットパークを創設)

●協働のまちづくり



まちづくりワーキング会議の開催



観光ボランティアガイドの育成